

「広島県建設分野の革新技术活用制度」登録技術の活用事例

技術名称：GTフレーム工法

登録事業者：イビデングリーンテック(株)

様式2

① 設計・施工等の概要

項目	概要
年度	令和4年度
発注機関	広島県西部農林水産事務所
事業名	災害関連緊急治山事業 山腹工事 No.14-2
対象地	広島県安芸高田市吉田町多治比字烏帽子
工期	令和4年5月26日～令和5年2月13日
数量	GTフレーム工法 A=1827.7㎡

② 活用に至った現場条件や経緯

- 令和3年8月13日に発生した豪雨により被災した斜面の対策工事である。
- 現場内に毛利元就の父である毛利弘元の墓所があり、国指定史跡（多治比猿掛城跡）に隣接することから、法面对策として自然環境との調和や景観保全が強く求められた現場である。
- 景観保全の観点からコンクリート構造物が露出しない工法が求められたため、法面の全面的な緑化が期待できるGTフレーム工法が採用となった。
- 法面保護効果については、法面の浸食防止だけでなく、小規模な表層すべりの抑制工として法面の安全性を確保することが求められた。

③ 活用効果（本事例における定量的・定性的な効果）

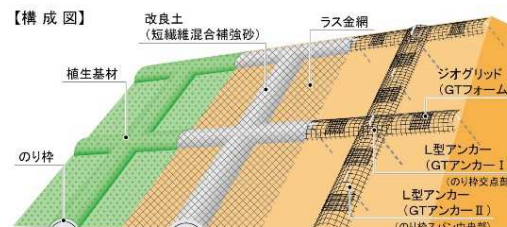
定量的な効果

- 施工日数として、従来技術（枠設置40日、吹付10日）に対して、登録技術（枠設置15日、吹付8日）となり、大幅な工期短縮となった。
（※数値は1,000㎡当たり、材料運搬作業等を含む）
- 施工時に雪が多かったため、従来技術（モルタル吹付）の場合、凍結等の問題で品質確保のために作業できない日が発生したと予想される（施工日数はさらに伸びたと見込まれる）。

定性的な効果

- 使用材料が長尺・重量物の鉄筋や金網型枠ではなく、軽量・コンパクトな材料なので、運搬や斜面上での作業が容易となり、施工性、安全性が向上した。
- 吹付材料は、圧送性・吐出性が良好な改良土なので施工性向上や工期短縮に貢献。

④ 活用状況写真



1 GTフレーム工法概要図



3 施工状況（改良土吹付、ラス張り完了）



2 施工状況（ジオグリッド設置）



4 施工完了